

鐘楼

伊勢崎市立北小学校学校運営協議会だより 第15号
(本年度2号)

令和3年11月1日 伊勢崎市立北小学校学校運営協議会

北小学校ホームページアドレス：<http://www.isesaki-school.ed.jp/kitasyo/>

☆第3回の北小学校学校運営協議会が行われました☆

9月29日(水)赤石楽舎の会議室を会場に第3回の学校運営協議会が行われました。主な内容は、以下の通りでした。

1. 2つのテーマを決め、本協議会として北小学校や北地区の児童の皆さんに、どんな支援ができるかを相談しました。

○テーマ1「健康・安全への高い意識・知識、判断力・行動力を身につけた児童の育成」

- ・昨年度作成し北小学校の各家庭に配布した「安全意識の醸成リーフレット」を、各家庭で実際に見て活用できるよう見直しを図っていこう。
- ・タブレットを活用した学習が広まってくる中、各家庭にタブレットを持ち帰り使用する際に必要となる情報モラル教育の在り方を提言していこう。



○テーマ2「夢や希望をもち、社会性や道徳性を身につけた児童の育成」

- ・例年作成している「すまいるカレンダー(いじめ防止啓発カレンダー)」を本年度も北第二小学校と協働作成し、北地区全戸配布、北小学校と北第二小学校の各家庭に配布し、いじめ防止啓発をすすめていこう。
- ・児童の夢や希望をサポートするために、「未来力学習講座(キャリア教育)」を学校で開催できるように、講師の情報などを積極的に提供していこう。



2. 北小学校の第1回学校評価アンケートの結果について報告を受け、意見交換をしました。

○今回の北小学校の学校評価アンケートは、昨年度から実施された新しい学習指導要領の新しい学力観を基に、アンケート文の見直しを図り実施したという報告がありました。保護者、児童、教師へのアンケート結果をグラフで説明を受け、意見交換を行いました。

- ・安全面に関する数値が各部門で90%を超えているので、今後も引き続きしっかり取り組んで欲しい。
- ・いじめが発生したりその兆候が見られたりする場合は、速やかに対処し問題の解決に努めるとともに、だれもが気持ちよく学校生活を送れるよう今後もしっかり取り組んで欲しい。
- ・家庭での読書や自主学習の取り組みについては低い数値だったので、具体的な取り組みを期待したい。



本年度も残りあと1回の集まり(3学期)ですが、2つのテーマで協議した内容を次年度に向け、具体的に進められるよう協議していきたいと考えています。

【裏面に続きます。各委員からの応援メッセージも是非、ご高覧を!】

★委員からの応援メッセージ

高橋 香澄 委員「笑顔と未来」



子どもたちの「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」などの明るく元気な挨拶と笑顔は、周りの人をも笑顔にし、幸せな気持ちにしてくれます。子どもたちは、大人を見て育ちます。私たちは、子どもたちのお手本にならなければなりません。子どもたちの明るい未来をつくるためにも、私たち大人の笑顔が必要だと感じます。子どもたちの夢や目標をつくる学校・家庭。この場所が「大好き」だと思えるよう、私たち大人には、その選択のはばを広げてあげる役目があると思っています。



本堂 晴生 委員「学んで育つ」を応援します



新型コロナウイルスの影響で、学校生活や家庭生活に大変苦勞していますね。ウィルスって何なのでしょう。実は、ウィルスはこの地球上に人類が現れる前からいるそうです。たくさんの種類があって、環境に合わせて変化を続けています。人間の役に立ったウィルスもいましたが、今の新型コロナウイルスは人間にはとても困るウィルスですね。困ったことや苦勞することも、それがどういうことなのかを調べると、なぜそうなったかがわかってきて、自分でどうしたらよいかも考えやすくなると思います。ただ、インターネットやSNSにはたくさんの情報があって、大事なのは、本当の情報を見つけることです。子どもたちは、学校で勉強することで、本当の情報が何なのかを見つける力や、それをもとに自分で考える力もついてくるでしょう。「学んで育つ」を応援し、私も子どもたちと一緒に頑張りたいと思います。



新井 悦子 委員「未来の五輪選手たち」



新型コロナウイルスの影響で、史上初の一年延期となった夏季五輪東京大会。当選チケットを手にして観戦する予定だった児童もいたかもしれません。残念ながら観客席には誰もいないという前例のない五輪開催となってしまいました。しかし、自宅では大人も子どももテレビの前で大いに盛り上がったことでしょう。感動しましたね。新しい競技なども観戦し、興味を持ちやってみて！オリンピックで金メダルをとりたい！と思った子どもたちもいたことでしょう。そのやりたい気持ち、試しにやらせてみるといいですね。ひょっとしたら、原石が磨かれダイヤモンドとなり、金メダルがとれるかもしれません。テレビを観ての感動が、自分がメダルをとる感動になるなんてとても素晴らしいですね。どうぞ、許す限りやらせてみてあげてください。やり始めて夢中になれば前進です。好きこそ物の上手なれということわざがありますが、夢を追いかけ努力し成長することでしょう。北小・北二小出身の子どもたちから未来の五輪選手が誕生するのを楽しみにしています。



高橋 望 委員



大人になればなるほど、「変な事」は難しくなるような気がします。今までと同じやり方が楽にできますし、失敗することも少ないからです。新しいことを始めるには、提案したり、準備したりすることが必要になります。目の前のことで手一杯になっていると、そんな余裕も持ちにくいかもしれません。コロナ禍において、大学で働いている私は、もう1年以上、学生の前で“対面授業”をすることはなく、PC画面の前で“オンライン授業”を行っています。学生はこの状況をどのように思っているのか、考えないときはありません。コロナ前は、“対面授業”という言葉を使ってことはありませんでした。授業は“対面”で行うことが当たり前だったからです。授業のあり方自体が変わりました。コロナという危機に直面している今、これまでのやり方ではうまくいかないことも多いと思います。子どもたちのために、必要に応じて、臨機応変に「変な事」、その意識を持つことが私たちに求められているのではないのでしょうか。

